

武市修教授 略歴および研究業績

その他のタイトル	Lebenslauf und Publikationen von Prof. Osamu Takeichi
雑誌名	独逸文學
巻	59
ページ	13-20
発行年	2015-03-20
URL	http://hdl.handle.net/10112/00017955

武市 修教授 略歴および研究業績

略 歴

- 1945年 2月 大阪市旭区大宮町にて誕生
- 1960年 3月 尼崎市立武庫中学校 卒業
- 1963年 3月 兵庫県立尼崎北高等学校 卒業
- 1963年 4月 関西学院大学経済学部 入学
- 1967年 3月 関西学院大学経済学部 卒業
- 1967年 4月 大阪大学文学部独文学科 学士入学
- 1968年10月 ドイツ・ボン大学留学（～1969年 8月31日 サンケイスカ
ラシップ奨学生として）
- 1970年 2月 大阪大学文学部独文学科 退学
- 1970年 4月 大阪大学大学院文学研究科独文学専攻修士課程 入学
- 1972年 3月 同大学院同研究科同専攻修士課程 修了
- 1972年 4月 大阪大学大学院文学研究科独文学専攻博士課程 入学
- 1973年 3月 同大学院同研究科同専攻博士課程 退学
- 1973年 4月 神戸女子薬科大学 専任講師
- 1979年 4月 神戸女子薬科大学 助教授
- 1980年 4月 関西大学文学部 助教授
- 1986年 4月 関西大学文学部 教授
- 1988年 4月 関西大学在外学術研究員としてドイツ・ミュンヘン大学
で研究（～1989年 3月）
- 1999年10月 関西大学研修員としてドイツ・パッサウ大学で研究（～
2000年 3月）
- 2004年10月 関西大学在外調査研究員としてドイツ・バンベルク大学で
研究（～2005年 3月）
- 2006年 6月 文学博士（大阪大学）『中世ドイツ叙事文学の表現形式
— 押韻技法の観点から —』
- 2012年 4月 関西大学文学部 特別契約教授（～2015年 3月）

非常勤講師歴

- 1971年 4月 大阪工業大学 ドイツ語担当（～1973年 3月）
1973年 4月 関西学院大学経済学部 ドイツ語担当（～1988年 3月）
1980年 4月 神戸女子薬科大学 ドイツ語担当（～1988年 3月）
1991年 4月 関西学院大学大学院文学研究科 ドイツ語学担当（～1998年 3月）
1992年 4月 関西学院大学法学部 ドイツ語担当（～1999年 3月）
1995年 4月 大阪大学大学院文学研究科 ドイツ語学担当（～2001年 3月）
1997年 5月 信州大学人文学部 ドイツ語学特論Ⅰ担当（～1998年 3月 冬季集中講義）

学内役職

- 1990年10月 文学部学生主任（～1992年 9月）
1996年10月 教養部長（～1998年 9月）
1996年10月 大学協議員（～1998年 9月）
2000年10月 教学部長代理（～2001年 3月）
2000年10月 全学機構長代理（～2001年 3月）
2000年10月 重点領域研究助成委員（～2001年 3月）
2000年10月 全学自己点検評価委員（～2001年 9月）
2000年10月 評議員（～2004年 9月）
2001年 4月 学長補佐（～2001年 9月）
2002年 4月 文学部自己点検評価委員（～2003年 3月）

主な所属学会および社会的活動

- 関西大学独逸文学会（1982年～1985年、1988年～1990年、2006年～2011年 編集委員、2011年～2013年 会長）
大阪大学ドイツ文学会（1984年～1986年、1994年～1995年 編集委員）
阪神ドイツ文学会（1990年～1992年 編集委員、1992～1996年 幹事、

2008年4月1日～2010年3月31日 会長)

日本独文学会 (1995年～1997年ドイツ語学文学振興会審査委員)

ドイツ語技能検定試験・試験場責任者 (1992年6月～2012年3月31日)

大学評価・学位授与機構「教養教育」に関する評価員 (2002年～2003年)

大阪大学大学院文学研究科外部評価委員 (2008年8月～2009年3月)

研究業績

著書

ハルトマン・フォン・アウエ『イーヴァイン』(共著)、大学書林 1988年

中世ドイツ叙事文学の表現形式—押韻技法の観点から—、近代文芸社 2006年

学術論文

ハルトマン・フォン・アウエの『イーヴァイン』の世界、『神戸女子薬科大学人文研究』創刊号、1973年、47-74ページ

ドイツ語の格体系の変遷について、『神戸女子薬科大学人文研究』5号、1977年、37-49ページ

ドイツ語の Genitiv についての一考察、『神戸女子薬科大学人文研究』6号、1978年、47-58ページ

『ニーベルンゲンの歌』の写本について—BとCを中心に—その1、関西大学『独逸文学』27号、1983年、1-24ページ

『ニーベルンゲンの歌』の写本について—BとCを中心に—その2、関西大学『独逸文学』28号、1984年、1-20ページ

ハルトマンの騎士道批判—イーヴァインの罪をめぐって—、阪神ドイツ文学会誌『ドイツ文学論攷』27号、1985年、43-60ページ

代動詞 tuon の用法について、『関西大学文学論集』創立百周年記念号、1986年、457-488ページ

『ニーベルンゲンの歌』の写本について BとCを中心に—その3、関西大学『独逸文学』35号、1991年、46-67ページ

- Zum Ersatzverb *tuon*. In: *Sprachwissenschaft*, Bd.17, Heft 2, 1992, S.200-221
- duan, tuon, machen* について、日本独文学会誌『ドイツ文学』92号、1994年、55-65ページ
- „*si ist rehte zuo gekêret*” は受動文か、『関西大学文学論集』文学部創設70周年記念特輯号、1995年、209-227ページ
- ドイツ語における受動態の形成について、大阪大学ドイツ文学会誌『独文学報』11号（中村元保教授還暦記念号）、1995年、303-323ページ
- 中世ドイツ語における迂言表現—押韻技法の観点から—その1、関西大学『独逸文学』42号、1998年、150-172ページ
- 中世ドイツ語における迂言表現—押韻技法の観点から—その2、関西大学『独逸文学』44号、2000年、251-289ページ
- 中高ドイツ語に見られる語形の多様性—押韻技法の観点から縮約形を中心に—、阪神ドイツ文学会誌『ドイツ文学論攷』42号、2000年、81-102ページ
- 中世ドイツ語における迂言表現—押韻技法の観点から—その3、関西大学『独逸文学』46号、2002年、1-25ページ
- Verschiedene Ausdrucksmöglichkeiten in der mittelhochdeutschen Literatur — unter besonderer Berücksichtigung der Endreimdichtung —、関西大学『独逸文学』47号、2003年、61-80ページ
- lâzen* の用法について—押韻技法の観点から—、関西大学『独逸文学』48号、2004年、49-80ページ
- Das mittelhochdeutsche *an* als Adverbialpräposition. In: *Sprachwissenschaft Kyoto* 3号、2004年、1-23ページ
- Zum Gebrauch der kontrahierten Formen von *sagen* im Tristan、関西大学『独逸文学』49号、2005年、17-34ページ
- Zum Gebrauch der kontrahierten Formen der Verben *legen* und *ligen* in der mittelhochdeutschen Epik — unter besonderer Berücksichtigung der gebundenen Dichtung. In: *Sprachwissenschaft* Bd. 30, Heft 3, 2005, S.279-308
- 『クードルーン』に見られる縮約形 その1—*sagen* と *lâzen* を中心に『ニーベルンゲンの歌』との比較から—、関西大学『独逸文学』50

- 号、2006年、59-80ページ
- 『クードルーン』に見られる縮約形 その2 — その他の語の縮約形 —、
関西大学『独逸文学』51号、2007年、83-109ページ
- Zum Gebrauch der kontrahierten Formen des Verbs *sagen* in der mittel-
hochdeutschen Epik (unter besonderer Berücksichtigung der gebundenen
Dichtung). In: *Sprachwissenschaft* Bd. 32, Heft 2, 2007, S.167-
206
- 『イーヴァイン』における名詞 *mære* の用法 — 押韻技法の観点から —、
関西大学『独逸文学』52号、2008年、23-49ページ
- 名詞の迂言表現 — 押韻技法の観点から *lip* の場合 —、大阪大学ドイ
ツ文学会誌『独文学報』24号 (林正則教授退職記念号)、2008年、
17-39ページ
- Zum Gebrauch der kontrahierten Formen von *lâzen* in der mittelhochdeut-
schen Epik unter besonderer Berücksichtigung der gebundenen Dich-
tung. In: *Sprachwissenschaft*, Bd. 34, Heft 2, 2009, S.187-205
- 押韻技法の観点から見た名詞 *hant* の用法、関西大学『独逸文学』54号、
2010年、35-56ページ
- Zum Gebrauch der kontrahierten Formen von *lâzen* in der mittelhochdeut-
schen Epik unter besonderer Berücksichtigung der gebundenen Dich-
tung. II. Teil. In: *Sprachwissenschaft*, Bd.35, Heft 4, 2010, S.443-476
- Der Wandel der Gebrauchsweisen vom Verb *lâzen* (nhd. lassen) vom
Mittelhochdeutschen zum Frühneuhochdeutschen. In: *Geschichte und
Typologie der Sprachsysteme (History and Typology of Language
Systems)*, 2011, S.355-364
- Wandel vom Althochdeutschen über das Mittelhochdeutsche bis zum Früh-
neuhochdeutschen: Einige sprachliche Phänomene. In: *Vielheit und
Einheit der Germanistik weltweit*, Bd.17, 2013, S.77-81
- 『ザクセン宝鑑』に見られる表現技法 — 中高ドイツ語叙事作品との比
較から — その1、関西大学『独逸文学』57号、2013年、53-75ペー
ジ
- 『ザクセン宝鑑』に見られる表現技法 — 中高ドイツ語叙事作品との比
較から — その2 否定表現について、関西大学『独逸文学』58号、

2014年、1-32ページ

中高ドイツ語叙事作品に見られる表現技法—『哀れなハインリヒ』を手がかりに『ザクセン宝鑑』の表現と比較して—、関西大学『独逸文学』59号、2015年、39-76ページ。

学会発表等

『ニーベルンゲンの歌』の研究の流れについて、1982年1月 阪神ドイツ文学会第101回研究発表会

『ニーベルンゲンの歌』の写本BとCについて、1982年6月 阪神ドイツ文学会第103回研究発表会 シンポジウム「ニーベルンゲンの歌」において

ミンネザング、その基盤—社会的発生をめぐって—、1985年1月 阪神ドイツ文学会第113回研究発表会 シンポジウム「ミンネザング」において

Über die Handschriftenverhältnisse des Nibelungenliedes、1985年10月、ミュンヘン大学 Hans Fromm 教授来日記念中世ドイツ文学セミナー Germanistik 研究—Mediävistik の場合—、1987年12月 関西大学独逸文学会第64回研究発表会

動詞 *tuon* の用法について、1989年7月 関西大学独逸文学会第67回研究発表会

Zum Gebrauch des mhd. *tuon* als Ersatzverb、1991年8月 日本独文学会第20回語学ゼミナール

中高ドイツ語における受動と完了、1994年6月 阪神ドイツ文学会第150回研究発表会 シンポジウム「ドイツ語動詞体系の歴史の変遷—現代語への道—」において

中世ドイツ語における迂言表現—押韻技法の観点から—、1999年4月 阪神ドイツ文学会第168回研究発表会

Verschiedene Möglichkeiten zum Umschreiben im Mittelhochdeutschen — unter besonderer Berücksichtigung der Reimdichtung—、2002年10月 パッサウ大学 Hans-Werner Eroms 教授来日記念シンポジウム

中高ドイツ語叙事詩に見られる表現の多様性、2003年6月 京都ドイツ語学研究会第50回例会

Ein charakteristisches Phänomen unter der gebundenen Dichtung im Mittelhochdeutschen — kontrahierte Wortformen des mittelhochdeutschen schwachen Verbs *sagen* —、2004年12月、バンベルク大学言語学コロキウム

『クードルーン』における縮約形—押韻技法の観点から—、2005年10月 関西大学独逸文学会第98回研究発表会

中世ドイツ叙事文学の押韻技法、2006年7月 阪神ドイツ文学会第192回研究発表会

これからのドイツ語学・言語学を考える、2006年12月 京都ドイツ語学研究会20周年記念コロキウム

中世ドイツの文学的・言語的展開、2008年4月 阪神ドイツ文学会第196回研究発表会

『クードルーン』におけるいわゆる「ニーベルンゲン詩節」について、2008年7月 阪神ドイツ文学会第197回研究発表会 シンポジウム「『クードルーン』を読む—『ニーベルンゲンの歌』との語学的・文学的比較から—」において

Wandel vom Ahd. über das Mhd. bis zum Frühnhd. — einige sprachliche Phänomene—、2010年8月 国際ゲルマニスト会議第12回大会（ワルシャワ大学）

Der Wandel der Gebrauchsweisen vom Verb *lâzen* (nhd. lassen) vom Mittelhochdeutschen zum Frühneuhochdeutschen、2010年10月 国際言語学会議（ポーランド・ジェロナグラ大学）

『ニーベルンゲンの歌』から『ザクセン宝鑑』まで—私の研究を振り返って—、2014年11月 関西大学独逸文学会第107回研究発表会

翻訳

ハルトマン・フォン・アウエ『イーヴァイン』1、神戸女子薬科大学『人文研究』2号、1974年、5-29ページ

ハルトマン・フォン・アウエ『イーヴァイン』2、神戸女子薬科大学『人文研究』3号、1975年、37-62ページ

ハルトマン・フォン・アウエ『イーヴァイン』3、神戸女子薬科大学『人文研究』4号、1976年、29-72ページ

辞典執筆

『世界歴史大辞典』（教育出版センター）1985年7月「中世ドイツ文学」、
「ニーベルンゲンの歌」、「ハルトマン・フォン・アウエ」、「ゴット
フリート・フォン・シュトラースブルク」、「ヴォルフラム・フォン・
エッシェンバハ」の5項目

その他

IVG 紹介と私の発表計画、関西大学『独逸文学』53号、2009年3月、87
-92ページ

大阪における中世ドイツ語作品の輪読会、『ラテルネ』101号、2009年3
月、1-3ページ